官報公示     2-1514     CAS No.     126-98-7       判定案     人健康影響 第二種監視化学物質相当       名称     名 称:メタクリロニトリル 分子量:67.09	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
判定案					
名称         名 称:メタクリロニトリル					
構造式等 │ 分子量: 67.09					
分子式:C₄H₅N					
CH <sub>3</sub> CN					
CH <sub>2</sub>					
用途					
製造及び 100 t 以上					
輸入数量 / (2015)					
外観無色液体					
分解性       良分解性         蓄積性       -					
Ames 陰性 (PMGO ) 按# (PMGO ) # (PMGO					
純度 99%. 溶媒 (DMSO-溶解).					
TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 µ g/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実	: +/ <del>-</del> :				
(本試験 ])	: 他.				
-S9mix 群:5000 $\mu$ g/plate					
+S9mix 群:5000 µ g/plate					
(本試験Ⅱ)	(本試験Ⅱ)				
-S9mix 群:5000μg/plate					
+ S9mix 群: 5000 µ g/plate					
染色体 陽性 異常 D20 値=0.090mg/mL(+S9mix 群:構造異常)					
異常 D20 値=0.090mg/mL(+S9mix 群:構造異常) +S9mix 群において構造異常の誘発.					
純度 99%. 溶媒(注射用水-溶解). CHL/IU.					
0.67mg/ml(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度	まで宝施				
-S9mix 群: 0.67mg/mL (10mM)	S C <del>X</del> /III.				
+S9mix 群:0.54mg/mL(細胞毒性のため 0.27mg/mL まで観察)					
24 時間処理群:0.67mg/mL(10mM)					
反復投与 動物種・系統 ラット Crj:CD(SD)IGS					
毒性・生 投与方法 強制経口投与 溶媒:オリーブ油					
植発生毒 純度 99% 性併合試 田島 3 投与群 (7.5.15.30 mg/kg/dov)					
6A 7/1里 3 汉子研(7.5, 15, 50 ing/kg/day)					
9EL 74U					
NOEL 反復投与毒性: 7.5 mg/kg/day 未満	l,				
生殖発生毒性:30 mg/kg/day 推定根拠 反復投与毒性:					
推定依拠   及復投子母性:   相対重量(肝↑:7.5 以上♀30♂)					
組織学的所見(腺胃:びらん:7.5以上♀)	l!				
生殖発生毒性:					
全群で特に毒性学的影響は認められていない					

	他の毒性	反復投与毒性: 血液学的検査(RBC↓・Hct↓・Hgb↓:30♂) 血液生化学的検査(Bil↑:30♀、Cre↑:30♂) 絶対重量(肝↑・脾↑:30♀) 相対重量(脾↑:30♀) 組織学的所見(脾ー髄外造血:15以上♀) 生殖発生毒性:			
	回復性	実施せず			
人健康影響判定根 拠			うるが染色体 化学物質相当		り、NOEL 7.5mg/kg/day 未満である
環境調査	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
<b>※</b> 1	水質	S62	0/75	_	$(0.7) \mu \text{ g/L}$
	底質	S62	0/75		$(0.014)\mu\mathrm{g/g}$ -dry
	魚類				
	大気	S62	0/61	_	(40) ng/m <sup>3</sup>
	その他	,			
備考	<b>※</b> 1 S63	3年版「化学	学物質と環境	近」(環境省環境保健部	『環境安全課)

9011101	<b>物質番食</b> :					
官報公示 整理番号	2-1291, 2	2-2709	CAS No.	683-10-3		
判定案	人健康影	響第二種監視化学物質	1相当			
名称	タ 称・	 N,N-ジメチル-N-ドデシ	ルガリシン			
構造式等	分子量: :	,	ルクリンン			
111 YE 24 ()	1	分子式:C <sub>16</sub> H <sub>33</sub> NO <sub>2</sub>				
	/3 3 24 .	C1011331102	(	CH <sub>3</sub>		
		CH <sub>*</sub> (	CH <sub>2</sub> ) <sub>11</sub>	l⊕ ⊖ NCH₂COO		
		O1 13(	0112/11			
				I CH <sub>3</sub>		
用途	9 1901 W	ブド 9 9700 レーケー 安田				
製造及び		. <u>い 2-2709</u> として工業用 .して 10,000~100,000 t		庭等洗浄剤、塗料用、繊維剤、その他 <sup>*1</sup>		
輸入数量	1	して 1,000~100,000 t 未				
外観	淡黄色透		<b>\ 们</b> 问			
分解性	良分解性	<b>ラバス (平</b>				
蓄積性	一					
Ames	陰性					
Ames		7.1% (水溶液). 溶媒 (;	注射田水 — ※	5 AD \		
Ī				əng). ıvrA/pKM101.純度換算有り*		
		5000μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. (本試験Ι)				
		- S9mix 群 : 39.1 µ g/plate* (TA98, TA1537 : 19.5 µ g/plate 以上で菌の生育阻害)				
				A1535: 39.1 μ g/plate 以上で菌の生育阻害)		
				A: 78.1 μ g/plate 以上で菌の生育阻害)		
	+5			「A1535:最高用量で菌の生育阻害)		
		$625\mu\mathrm{g/plate}^3$	* (TA98, TA	A1537:313μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
		$2500\mu$ g/plate	e* (WP2uv	rA:1250 μ g/plate 以上で菌の生育阻害)		
		(本試験Ⅱ)				
	-5			A1537 : 19.5 μ g/plate 以上で菌の生育阻害)		
				A1535:39.1 µ g/plate 以上で菌の生育阻害)		
	, ,			A: 78.1 μ g/plate 以上で菌の生育阻害)		
	+ 5	~ -		[A1535: 最高用量で菌の生育阻害]		
				1537:313μg/plate 以上で菌の生育阻害) :A:1250μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体	陰性	Δουο μ g/plau	= (WIZUVI	.A. 1400μg/plate 以上(困切生育阻舌)		
異常		1%(水溶液) 溶벦 (規	表留水 — 溶解	).CHL/IU.純度換算有り*		
,						
		0.5mg/ml まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群:0.2mg/mL(50%以上細胞増殖抑制濃度)				
				ころでは、1000mmL は半分の観察細胞数で観察)		
				のため 0.125mg/mL まで観察)		
反復投与	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)IC	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
毒性・生	投与方法	<u> </u>	:局方注射用	月水		
殖発生毒	純度	27.1 %(水溶液)				
性併合試	用量	3群(10, 60, 300 mg/l	kg/day)			
験	死亡	予備試験(1000:3/3。				
		本試験(300:2/17♀)				

	NOEL	反復投与毒性:10 mg/kg/day
		生殖発生毒性:60 mg/kg/day
	推定根拠	反復投与毒性:
		組織学的所見(腎-尿細管変性/壊死:60 以上♀、腎-腎盂上皮過形成、
		膀胱-粘膜上皮増殖:60 以上♂♀)
<b>!</b>		生殖発生毒性:
		妊娠期間延長・出産児数↓:300、出生児死亡:300
	他の毒性	反復投与毒性:
		血液生化学的検査(BUN↑:300♂♀、Ca↑:300♀)
		組織学的所見(前胃ーび漫性炎症性細胞浸潤・水腫・びらん・角化亢進・扁
		平上皮過形成・錯角化:300♂♀、腎-尿細管好塩基性化: ┃
		300♀)
		生殖発生毒性:
		_
	回復性	膀胱ー粘膜上皮増殖
人健康影	Ames 試懸	険及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL 10mg/kg/day であることから第
響判定根	二種監視化	<b>上学物質相当。</b>
拠	<u></u>	
備考	※1 化学	学物質の製造・輸入量に関する実態調査(平成19年実績)
		( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

合和ハー	0.1044		0.000		
官報公示 整理番号	2-1044		CAS No.	868-77-9	
判定案	人健康影	響第二種監視化学物質	相当		
名称	ı	メタクリル酸 2-ヒドロキ	シエチルエ	ステル	
構造式等	分子量:				
	分子式:	$\mathrm{C_6H_{10}O_3}$			
			O II		
		CH <sub>2</sub>		OH	
			Y C	· · · · · ·	
			CH <sub>3</sub>		
用途		して中間物、溶剤、塗料		、その他 <sup>*1</sup>	
製造及び	$  2 \cdot 1044 \ge$	して 100,000~1,000,00	)0 t 未満 <sup>* 1</sup>		
輸入数量	/m なきロロ	** /L			
外観	無色透明	<b>俊体</b>			
分解性	良分解性				
蓄積性					
Ames	陰性		<b></b>		
		7.6%. 溶媒(注射用水-			
		TA100, TA1535, TA1			
	5000μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. (本試験 I)				
	「本成級 1) 一S9mix 群:5000 µ g/plate				
	+ S9mix 群:5000 $\mu$ g/plate + S9mix 群:5000 $\mu$ g/plate				
	(本試験Ⅱ)				
	-5	89mix 群:5000 $\mu$ g/plat	e		
	+8	89mix 群:5000 $\mu$ g/plat	e		
染色体	陽性				
異常	D20 = 0	.20mg/mL(48 時間処理	理群:構造異位	常)	
	+S91	mix 群及び 24 時間並び	こ 48 時間処3	理群において構造異常の誘発、-S9mix 群	
		48 時間処理群において数			
		.6%. 溶媒(注射用水ー			
	4.0111g/1.	m まて美施した細胞増殖 9mix 群:1.3mg/mL(1	目抑削試験♡ノ; !0~*M()	結果を参考に、以下の濃度まで実施.	
		59mix群:1.3mg/mL(1	*		
		時間処理群:1.3mg/mL			
				ため 0.65mg/mL まで観察)	
反復投与	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)		0 51 190/1/	
毒性・生	投与方法		:注射用水		
殖発生毒	純度	97.6 %			
性併合試	用量	4 投与群(30, 100, 300	, 1000 mg/kg	g/day)	
験	死亡	1000% (1/12), 1000%			
	NOEL	反復投与毒性:30 mg/l			
		生殖発生毒性: 1000 m			
		工/尼儿工舞任,1000 III	grkgruay		

				•		
	推定根拠	反復投与書	<b>≨性:</b>		•	
		血液生化	乙学的検査(	(BUN↑: 30 以上♂)		
		生殖発生調	<b>≨性:</b>			
		全群で特	持に毒性学的	]影響は認められていない		
	他の毒性	反復投与書	<b>季性:</b>			
		体重↓:	体重↓:1000♂♀、摂餌量↓:1000♂♀			
		一般状態	一般状態(流涎:1000♂♀、自発運動低下・腹臥・流涙・被毛の汚れ・表皮┃			
			温降下・	呼吸緩徐:1000♀)		
		血液生化	2学的検査	$(\mathrm{TG}\downarrow \cdot \mathrm{K}\uparrow \cdot \mathrm{Cl}\uparrow \cdot \mathrm{Pi}\uparrow :$	: 1000♂)	
		絶対重量	建(腎↑:10	00 以上♀)	·	
		相対重量	建(腎↑:10	00 以上♂1000♀)		
		病理組織	战学的所見(	(腎-尿細管拡張・集合管拡	3張:1000♂)	
		生殖発生	<b>}性:</b>	,		
		-				
	回復性	実施せず				
人健康影	Ames 試験	は陰性であ	るが染色体	異常試験は陽性であり、No	OEL 30mg/kg/day 未満である	
響判定根	ことから第	<b>育二種監視</b> ((	二種監視化学物質相当。			
拠						
環境調査	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値	
<b>※</b> 2	水質	H11	3/27	$0.12 \sim 051 \mu\mathrm{g/L}$	$(0.025)\mu\mathrm{g/L}$	
	底質	H11	0/27		$(0.0014) \mu  \text{g/g-dry}$	
	魚類					
	大気					
	その他					
備考	※1 化等	学物質の製造	・輸入量に	:関する実態調査(平成19	年実績)	
	<b>※</b> 2 <b>H</b> 1	2年版「化学	学物質と環境	<b>竟」(環境省環境保健部環境</b>	安全課)	

	初貝番宜ンート 
官報公示 整理番号	0110 100 00 2
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当
名称	名 称:アクリル酸 2-(ジメチルアミノ) エチルエステル
構造式等	17. 4
	分子式: C <sub>7</sub> H <sub>13</sub> NO <sub>3</sub>
	O CH <sub>3</sub>
	CH
	CH <sub>2</sub>
田 '冷	O' CH <sub>3</sub>
用途 製造及び	-   100 t 以上
製足及5 輸入数量	
外観	無色透明液体
分解性	良分解性
蓄積性	
Ames	陽性
	比活性值=10.6rev./mg(+S9mix 群:TA98)
	+S9mix 群の TA98 で対照の 2 倍を超える変異コロニーの誘発.
	純度 99.9%. 溶媒 (注射用水-溶解).
	TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA.
[	5000μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. (本試験Ι)
	-S9mix 群:2500 μ g/plate(TA98, TA1537:最高用量で菌の生育阻害)
	5000 µ g/plate (TA100, TA1535, WP2uvrA: 最高用量で菌の生育阻害)
	+S9mix 群: 5000 µ g/plate (TA1535: 2500 µ g/plate 以上で菌の生育阻害)
	(TA1537:最高用量で菌の生育阻害) (TA98, TA100, WP2uvrA)
	(本試験Ⅱ)
	-S9mix 群:2500 µ g/plate(TA1537:1250 µ g/plate 以上で菌の生育阻害)
	(TA98:最高用量で菌の生育阻害)
	5000μg/plate(TA1535:2500μg/plate 以上で菌の生育阻害)
	(TA100, WP2uvrA:最高用量で菌の生育阻害)
	+ S9mix 群:5000 µ g/plate(TA1535, TA1537:最高用量で菌の生育阻害) (TA98, TA100, WP2uvrA)
	(確認試験)
	+S9mix 群:5000 µ g/plate(TA98)
染色体	陽性
異常	D20=0.014mg/mL (-S9mix 群:構造異常)
	すべての群において構造異常及び数的異常の誘発.
	純度 99.9%. 溶媒(注射用水-溶解). CHL/IU.
	1.4mg/ml まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. - S9mix 群:0.08mg/mL(細胞毒性のため 0.01mg/mL まで観察)
	+ S9mix 群: 0.06mg/mL (細胞毒性のため 0.05mg/mL まで観察)
1	「 DJIIIA 作 、 D.HII2/III」 (MINE HET V)/、 以)U USMO/MI、 中 (作的文)
	24 時間処理群:0.12mg/mL(細胞毒性のため 0.06mg/mL まで観察) 48 時間処理群:0.12mg/mL(細胞毒性のため 0.06mg/mL まで観察)
	24 時間処理群:0.12mg/mL(細胞毒性のため 0.06mg/mL まで観察)

殖発生毒	純度	99.9 %
性併合試	用量	3 投与群(4, 20, 100 mg/kg/day)
<b> </b> 験	死亡	100♀:2/12 [肺出血]
	NOEL	反復投与毒性:4 mg/kg/day
		生殖発生毒性:100 mg/kg/day
	推定根拠	反復投与毒性:
		病理組織学的検査(前胃-粘膜過形成・炎症性細胞浸潤・潰瘍:20 以上♂ 100♀)
		生殖発生毒性:
		全群で特に毒性学的影響は認められていない
	他の毒性	反復投与毒性:
		一般状態(流涎:100♂♀)
		血液生化学的検査(Ret↑・Plt↑・Lymp↓・Seg↑:100♂)
		血液学的検査(Alb↓: 100♂)
		相対重量(胸腺↓:100♀)
		絶対重量(胸腺↓:100♀)
		病理組織学的所見(十二指腸リンパ節ー形質細胞の増生:100♂♀、胸腺ー 退縮:100♀)
	ı	
	回復性	実施せず
人健康影響判定根	Ames 試験 監視化学物	後及び染色体異常試験は陽性であり、NOEL 4mg/kg/day であることから第二種
■譽刊疋侬 ■拠	监视化子的	<b>刈貝和日。</b>
備考	※1 化等	学物質の製造・輸入量に関する実態調査(平成19年実績)

<b>台却ハー</b>	0.1045		04037			
官報公示	2-1047		CAS No.	2867-47-2		
整理番号						
判定案	人健康影	響第二種監視化学物質	相当			
名称	名 称:	2-(ジメチルアミノ)エ	チルメタク!	Jラート		
構造式等	分子量:					
	分子式:	$\mathrm{C_8H_{15}NO_2}$				
			O.	ÇH₃		
			il .			
		CH <sub>3</sub>	Д,	^ /N.		
		$\longrightarrow$		CH <sub>3</sub>		
				5.13		
		II CH <sub>2</sub>		•		
用途	9 1047 b			TIT WillythL. htt TID tol X 1		
製造及び		して中間物、塗料用、線		• 妍刖佃、水処理剤**		
輸入数量	2-1041 €	にして 10,000~100,000 t	<b>术</b> 個^^			
外観	無色透明	it.H				
		11文1平				
分解性	良分解性					
蓄積性						
Ames	陽性					
		值=3.6rev./mg(-S9mi				
				える変異コロニーの誘発.		
		.9%.溶媒(蒸留水-溶				
	TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA.					
	5000 μ g/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. (本試験 I )					
			(m) 00 m			
	-:	$59$ mix 群: $5000 \mu$ g/plat		A1537:最高用量で菌の生育阻害)		
	<b>+</b> 0	S9mix 群:5000 µ g/plate		A1535, WP2uvrA)		
		(本試験 II)				
			о (ТАО <u>Р</u> ТА	1537:最高用量で菌の生育阻害)		
	_	oomix ## . σοσο μ g/plan		A1537. 取同用重で困め生育阻告) A1535, WP2uvrA)		
	+5	S9mix 群:5000 μ g/plate		A1959, W1 ZUVIA)		
	(確認語					
			(TA98 TA	· 1537 : 3500μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体	陽性	g, veces pag. prace	(11100, 111	1001.0000 /k g/plate		
異常		.19mg/mL(-S9mix 群	:構造異常)			
		mix 群において構造異常				
	純度 99	.9%.溶媒(蒸留水-溶タ	解).CHL/II	IJ.		
	5.0mg/r	nl まで実施した細胞増殖	<b>抑制試験の</b>	結果を参考に、以下の濃度まで実施.		
	-s	59mix 群:1.6mg/mL(糸	田胞毒性のた	め 0.6mg/mL まで観察)		
		59mix 群:1.6mg/mL(5				
	24 時間処理群:0.625mg/mL(50%以上細胞増殖抑制濃度)					
	48	時間処理群:0.625mg/m	L (50%以上	:細胞増殖抑制濃度)		
	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)IG	S			
毒性・生	投与方法	強制経口投与 溶媒	<u></u> : コーン油			
	純度	99.9 %				
殖発生毒	用量	3 投与群(40, 200, 100	0 mg/kg/dav	)		
性併合試	死亡	対照群:1/12♀ [難産]				
	/UL	[////////// ・ 土/ 上   【大正/上】	, 1000 . 0/1	4 「「ルドイトル生」		

験	NOEL	反復投与毒性:40 mg/kg/day
		生殖発生毒性:200 mg/kg/day
	推定根拠	反復投与毒性:
		一般状態(流涎:200 以上♂1000♀)
		血液学的検査(Hgb↓・Hct↓・Ret↑:200 以上♂)
		生殖発生毒性:
		同腹内全新生児死亡、体重↓・4 日生存率↓:1000
	他の毒性	反復投与毒性:
		体重↓・摂餌量↓:1000♀
		一般状態(挙尾・痙攣:1000♂♀、間代性痙攣:1000♂)
		尿検査(尿量↑:1000♂)
		血液学的検査(RBC↓・MCV↓・MCH↓・WBC↑・Lymp↓:1000♂)
		血液生化学的検査(BUN↑・Na↓:1000♂) 絶対重量(副腎↑:1000♀)
		相対重量(副青   . 1000 + /   相対重量(肝 ↑ : 1000 ♂ 、腎 ↑ : 1000 ♂ ♀ 、副腎 ↑ : 1000 ♀ )
		組織学的所見(胃ー水腫、前胃ーび慢性粘膜増生・炎症性細胞浸潤、脳ー赤
		核脊髓路領域神経線維変性、脊髄一背側後脊髄小脳路神経線
		維変性:1000♂♀、腎一好塩基性尿細管:1000♂、前胃一
		潰瘍、胸腺-萎縮:1000♀)
		生殖発生毒性:
	回復性	実施せず
人健康影	Ames 試影	後及び染色体異常試験は陽性であり、NOEL 40mg/kg/day であり、神経行動毒
響判定根	性と思われ	1る毒性学的に重要な所見が認められることから第二種監視化学物質相当。
拠		· ·
備考	※1 化当	学物質の製造・輸入量に関する実態調査(平成19年実績)
JH∃ 7°J		「沙泉〜秋尾 間八里に内する大芯剛虫(「炒10十大帆)
<u> </u>		

官報公示	2-798 CAS No. 111-82-0
整理番号	2-798 CAS No. 111-82-0
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当
名称	名 称:ドデカン酸メチル
構造式等	O
用途	2-798 として中間物、溶剤、プロセス調節剤、家庭等洗浄剤、印刷インキ等、着香・消臭
	剤、繊維剤、樹脂添加剤、ゴム添加剤、皮革処理剤、潤滑・研削油、電気電子材料、燃料
	等、その他 <sup>※1</sup>
製造及び	2-798 として 100,000~1,000,000 t 未満*1
輸入数量	
外観	無色透明液体
分解性	良分解性
蓄積性	
藻類生長	生物種:Pseudokirchneriella subcapitata
阻害試験	試験法:化審法 TG(2003)
	培養方式:振とう培養(密閉系)
	純度:99.6%
	試験濃度:設定濃度 0.038、0.075、0.15、0.30、0.60 mg/L
	実測濃度 0.040、0.074、0.16、0.32、0.60 mg/L (ばく露開始時)
	助剤: DMF 0.1 mL/L
	72hEC50 (実測値に基づく) =0.32 mg/L
ミジンコ	72hNOEC(実測値に基づく)=0.040 mg/L
繁殖阻害	生物種:オオミジンコ Daphnia magna 試験法:化審法 TG
試験	試験方式:流水式
HA MADO	純度:99.6%
	試験濃度:設定濃度 0.063、0.13、0.25、0.50、1.0 mg/L
	実測濃度 0.0096、0.033、0.081、0.21、0.41 mg/L (算術平均値)
	助剤:DMF 0.1 mL/L
	21dNOEC(実測値に基づく)=0.081 mg/L
生態影響	藻類生長阻害試験において $72\text{hNOEC} = 0.040 \text{ mg/L}$ 、ミジンコ繁殖阻害試験において
工窓影音    判定根拠	21dNOEC=0.081 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	
	試験用水溶解度:藻類培地:0.69 mg/L、脱塩素水道水:0.48 mg/L ※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査(平成19年実績)
	ハェ ILT70貝ツ衣但 物八里に因りる天忠嗣宜(十成19午天績)

	<b>勿貝番宜ンート</b> 
官報公示 整理番号	2-66 CAS No. 111-85-3 2-68
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当
名称	名 称:1-クロロオクタン
構造式等	
用途	2-68 として中間物、ゴム添加剤、潤滑・研削油、その他*1
製造及び	2-68 として 10,000~100,000 t 未満 <sup>* 1</sup>
輸入数量 外観	無色透明液体
分解性	良分解性
蓄積性	
藻類生長	生物種:Pseudokirchneriella subcapitata
阻害試験	試験法:OECD-TG201 (1984)
	培養方式:振とう培養
	純度:≧95.0% 試験濃度:設定濃度 3.6、8.2、19、44、100 mg/L
·	実測濃度 0.074、0.095、0.16、0.27、1.5 mg/L (幾何平均値)
	助剤: HCO-50 100 mg/L
	72hEC50(実測値に基づく)>1.5 mg/L
	72hNOEC(実測値に基づく)=0.27 mg/L
	①実測濃度の幾何平均値を用いて、速度法に基づく毒性値を再計算している。
ミジンコ	生物種:オオミジンコ Daphnia magna
繁殖阻害	試験法: OECD-TG211 (1997)
╽試験	試験方式:半止水式、週に3回換水
	純度:≧95.0% 試験濃度:設定濃度 0.070、0.12、0.21、0.38、0.69、1.2 mg/L
	実測濃度 - 、-、-、0.073、0.17、0.30 mg/L (時間加重平均値)
	助剤:HCO-50 100 mg/L
<i>€</i> 3, ¥≤5 511 H0	21dNOEC(実測値に基づく)=0.073 mg/L
無類初期     生活段階	生物種:ヒメダカ Oryzias latipes 試験法:OECD-TG210(1992)
毒性試験	試験方式:流水式
	純度:99.9%
	試験濃度:設定濃度 0.015、0.038、0.095、0.24、0.60 mg/L
	実測濃度 0.0085、0.021、0.057、0.16、0.40 mg/L(算術平均値) 助剤: HCO-60 1.2 mg/L、DMF 約 0.1 mL/L
	9月 : HCO-60 1.2 mg/L、DMF 約 0.1 mL/L 40dNOEC(孵化後の生存率)(実測値に基づく)=0.057 mg/L
生態影響	藻類生長阻害試験において $72\text{hNOEC} = 0.27 \text{ mg/L}$ であるが、ミジンコ繁殖阻害試験にお
判定根拠	いて 21dNOEC=0.073 mg/L、魚類初期生活段階毒性試験において 40dNOEC=0.057
	mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度: 4.89 mg/L (25℃) (EPI Suite v.4.0)
	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査(平成19年実績)

	物具番宜ンート 			
官報公示	2-176 CAS No. 124-28-7			
整理番号	2-185			
判定案	4. 此 B. 郷 - 姓 - 廷 - 安 - 任 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5			
刊正条	生態影響 第三種監視化学物質相当			
名称	名 称:N, N-ジメチル-n-オクタデシルアミン			
	$\begin{bmatrix} \mathbf{a} & \mathbf{w} \cdot \mathbf{N}, \ \mathbf{N} = \mathbf{y} \mathbf{y} \mathbf{T} \mathbf{w} - \mathbf{N} = \mathbf{A} \mathbf{y} \mathbf{y} \mathbf{T} \mathbf{y} \mathbf{w} \mathbf{y} \mathbf{z} \mathbf{y} \end{bmatrix}$			
構造式等	11.0			
	ПзС			
	$H_3C$ $N$ — $(CH_2)_{17}$ — $CH_3$			
	$H_3C^2$			
用途	2-176 として中間物、工業用洗浄剤、家庭等洗浄剤、工業用殺菌等、ゴム添加剤、水処理			
	剤、その他*1			
製造及び				
輸入数量				
外観	無色透明液体			
分解性	良分解性			
蓄積性				
藻類生長	生物種:Pseudokirchneriella subcapitata			
阻害試験	試験法:OECD-TG201(1984)			
	培養方式:振とう培養			
1	純度:93.3%			
	試験濃度:設定濃度 0.0015、0.0027、0.0049、0.0089、0.016 mg/L			
	実測濃度 0.00060、0.00070、0.0010、0.0013、0.0018 mg/L(幾何平均值)			
	助剤: HCO-40 0.16 mg/L			
	72hEC50(実測値に基づく)=0.0018 mg/L			
	72hNOEC (実測値に基づく) =0.0010 mg/L			
	①実測濃度の幾何平均値を用いて、速度法に基づく毒性値を再計算している。			
ミジンコ	生物種:オオミジンコ Daphnia magna			
繁殖阻害	試験法: OECD-TG211 (1998)			
試験	試験方式:半止水式、24 時間毎に換水			
	純度:93.3%			
	試験濃度:設定濃度 0.0031、0.0063、0.013、0.025、0.050 mg/L			
	実測濃度 一、一、0.011、一 mg/L (時間加重平均値)			
ļ	<b>実例</b> 優及 一、一、0.011、一 mg/L (時間加重平均値) 助剤:HCO-40 0.50 mg/L			
	e			
at 1:10 - 1 - 1	21dNOEC(設定値に基づく)=0.0063 mg/L			
	藻類生長阻害試験において $72\text{hNOEC} = 0.0010 \text{ mg/L}$ 、ミジンコ繁殖阻害試験において			
判定根拠	21dNOEC=0.0063 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。			
備考	対水溶解度:0.44 mg/L(化審法の既存化学物質安全性点検データ集)			
	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査(平成19年実績)			
	(1) 1/4 - V 1 //4 - V 1 //			

ו ניון נויא	の貝番宜ンート 				
官報公示	2-814	CAS No.	93-83-4		
整理番号	2-827				
	2-2503				
判定案	生態影響 第三種監視化学物質	 相当			
13,00					
名称	名 称:N, N-ビス(2-ヒド	ロキシエチノ	ν) −オレアミド		
構造式等			_		
			ОН		
	(CH <sub>2</sub> )	) <sub>7</sub> CH <sub>3</sub>	ОН		
		. •			
		(CH <sub>2</sub>	)- N		
	11	`			
		J.			
用途	9.814 9.897 9.9503 レルア工業	田浩海初	O 家庭等洗浄剤、繊維剤、樹脂添加剤、潤滑・		
/TI AE	Z-814、Z-827、Z-2505 こして工業   研削油、電気電子材料、その他 <sup>※1</sup>		か、たってルロナタン、 MANTE A.J. (12) 1月(13) 1月(17)		
製造及び	2-814、2-827、2-2503 として 1,0		+		
製造及び輸入数量	4-014, 4-041, 4-2003 C U C 1,0	00 - 10,000	レ <i>ハ</i> 神		
	<b>知</b>	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
外観	無色透明液体	•			
分解性					
蓄積性					
藻類生長	生物種: Pseudokirchneriella sub	çapitata			
阻害試験	試験法:OECD-TG201 (1984)				
	培養方式:振とう培養				
	純度:75.1%				
	試験濃度:設定濃度 1.0、2.1、4.4、9.2、19、41、85 mg/L				
	実測濃度 0.55、1.1、2.4、5.1、12、22、55 mg/L (幾何平均値) 助剤:不明				
	72hEC50(実測値に基づく)>55 mg/L 72hNOEC(実測値に基づく)=12 mg/L				
		5			
	①実測濃度の幾何平均値を用いて	、速度法に基	<b>ま</b> づく毒性値を再計算している。		
ミジンコ	生物種:オオミジンコ Daphnia n				
繁殖阻害	1				
試験	試験方式:半止水式、週に3回換	rk			
	純度:75.1%	· <b>▼</b> -			
	試験濃度:設定濃度 0.021、0.03	38. 0.069. (	0.12, 0.22, 0.40 mg/L		
			0.057、0.13 mg/L (時間加重平均値)		
	助剤: HCO-50 1.2 mg/L	.101 0.0201	0.001、0.10 mg/D (四间加至下沟框/		
	21dNOEC(実測値に基づく)=0	057 mg/I			
生態影響		_	g/Lであるが、ミジンコ繁殖阻害試験におい		
判定根拠	て 21dNOEC=0.057 mg/L である	ことから、気	第三種監視化学物質相当。		
	and the state of t		n-L (		
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に	対する実態調	間金(半成19年実績)		

	一切貝番且ノニート		
官報公示 整理番号	1 111 00 0		
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称	名 称:オクタン		
構造式等			
用途	2-8 として溶剤、燃料等*1		
製造及び	<u>- 1                                   </u>		
輸入数量	2-6 こじて1,000,000~10,000,000 [ 永満~ /		
外観	無色透明液体		
分解性			
蓄積性			
藻類生長			
阻害試験	試験法:OECD-TG201(1984)		
	培養方式:振とう培養(密閉系)   純度: 99.2%		
	試験濃度:設定濃度 20 mg/L (24 時間振とう後にばく露)、5.0、10、20 mg/L (試験液		
	調製直後にばく露)		
	実測濃度 0.089、0.28、0.57、1.1 mg/L (幾何平均值)		
	助剤: HCO-40 100 mg/L		
	溶解限度で影響が認められなかった。		
	①実測濃度の幾何平均値を用いて、速度法に基づく毒性値を再計算している。		
ミジンコ	生物種:オオミジンコ Daphnia magna		
繁殖阻害	試験法:OECD-TG211(1997)		
試験	試験方式:半止水式、24 時間毎に換水		
	純度:99.2%		
	試験濃度:設定濃度 0.024、0.043、0.077、0.14、0.25 mg/L 実測濃度 0.013、0.023、0.045、0.084、0.16 mg/L (時間加重平均値)		
	助剤: HCO-40 濃度不明		
4-1-1-115	21dNOEC(実測値に基づく)=0.045 mg/L		
魚類初期	生物種:ヒメダカ Oryzias latipes		
生活段階 毒性試験	試験法:OECD-TG210(1992) 試験方式:流水式		
4 1上 110人	純度:98.1%		
·	試験濃度:設定濃度 0.010、0.025、0.063、0.16、0.40 mg/L		
	実測濃度 0.0057、0.013、0.028、0.069、0.19 mg/L(算術平均値)		
	助剤:HCO-60 0.8 mg/L、DMF 約 0.1 mL/L		
// 45 E/ 100	41dNOEC(体重・体長)(実測値に基づく) =0.028 mg/L		
生態影響	藻類生長阻害試験において溶解限度で影響が認められないが、ミジンコ繁殖阻害試験にお		
判定根拠	いて $21dNOEC=0.045$ mg/L、魚類初期生活段階毒性試験において $41dNOEC=0.028$ mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。		
備考	対水溶解度: 0.66mg/L(20℃) (Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals)		
	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査(平成19年実績)		

	の具質性と		
官報公示	2-27 CAS No. 112-41-4		
整理番号			
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
13/6/2			
名称	名 称:1-ドデセン		
構造式等			
117,22,11			
用途	2-27 として中間物、溶剤、塗料用、繊維剤、樹脂添加剤、その他		
製造及び	2-27 として 10,000~100,000 t 未満 <sup>※1</sup>		
輸入数量			
外観	無色透明液体		
分解性	_		
蓄積性	_		
藻類生長	生物種:Pseudokirchneriella subcapitata		
阻害試験	試験法:OECD-TG201(1984)		
	培養方式:振とう培養		
	純度:95%		
<b>!!</b>	試験濃度:設定濃度 0.45、0.95、2.0、4.3、9.0、19、40 mg/L		
	実測濃度 0.016、0.020、0.030、0.041、0.059、0.086、0.097 mg/L(幾何平		
	均值)		
	助剤:HCO-50 100 mg/L		
-	72hEC50(実測値に基づく)>0.097 mg/L		
	72hNOEC (実測値に基づく) = 0.059 mg/L		
	72IINOEC (天衆順に基クイ) 0.000 IIIg/D		
	①実測濃度の幾何平均値を用いて、速度法に基づく毒性値を再計算している。		
7 37 3			
ミジンコ			
繁殖阻害	試験法:OECD-TG211 (1998)		
試験	試験方式:半止水式、週に3回換水		
	純度: 95%		
	試験濃度:設定濃度 0.019、0.033、0.060、0.11、0.19、0.35 mg/L		
	実測濃度 0.0051、0.012、0.012、0.028、0.041、0.11mg/L (時間加重平均値)		
	助剤:HCO-50 100 mg/L		
	21dNOEC(実測値に基づく) = 0.041 mg/L		
生態影響	藻類生長阻害試験において 72hNOEC=0.059 mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において		
判定根拠	21dNOEC=0.041 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。		
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査(平成19年実績)		

	初貨番 <u>省ンート</u> 		
官報公示 整理番号	5-3732 CAS No. 52829-07-9		
<u> </u>			
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称	名 称:デカン二酸ビス(2,2,6,6-テトラメチル-4-ピペリジニル)		
11 1/1/    構造式等	$\begin{bmatrix} 1 & M \cdot f(\lambda) = \mathbf{K} \cdot (\lambda) $		
特但以守	H <sub>3</sub> C, CH <sub>3</sub> H <sub>3</sub> C, CH <sub>3</sub>		
	$HN$ $\longrightarrow$ $O$ $\longrightarrow$ $C$		
	H <sub>3</sub> C CH <sub>3</sub> H <sub>3</sub> C CH <sub>3</sub>		
用途	130 CH3		
製造及び			
輸入数量			
外観	白色結晶性粉末		
分解性			
蓄積性			
藻類生長	生物種: <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i>		
阻害試験	試験法:OECD-TG201(1984)		
	培養方式:振とう培養		
	純度:99.2%		
	試験濃度:設定濃度 0.020、0.043、0.093、0.20、0.43、0.93、2.0 mg/L		
	実測濃度 0.011、0.013、0.050、0.13、0.35、0.72、1.8 mg/L(幾何平均値)		
	助剤:THF 及び HCO-40 40 mg/L		
	72hEC50(実測値に基づく)=1.0 mg/L		
	72hNOEC(実測値に基づく)=0.050 mg/L		
	  ①実測濃度の幾何平均値を用いて、速度法に基づく毒性値を再計算している。		
ミジンコ	生物種:オオミジンコ Daphnia magna		
繁殖阻害	試験法: OECD-TG211 (1998)		
試験	試験方式:半止水式、24時間毎に換水		
	純度:99.2%		
	試験濃度:設定濃度 0.10、0.30、0.90、2.8、8.5 mg/L		
実測濃度 0.080、0.23、0.61、2.1、6.7 mg/L (時間加重平均値)			
	助剤:THF 及び HCO-40 68 mg/L		
	21dNOEC(実測値に基づく)=0.23 mg/L		
生態影響	ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.23 mg/L であるが、藻類生長阻害試験にお		
判定根拠	いて 72hNOEC=0.050 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。		
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査(平成19年実績)		